

愛知淑徳大学 清水裕二ゼミ
篠島活性化活動報告書



2014-2020

はじめに

篠島は三河湾に浮かぶ島で、日間賀島からわずか数 km に位置する漁業を中心とした生活が営まれている。夏は海水浴客でにぎわうが、それ以外のオフシーズンでは釣り客以外の観光客は少なく、日間賀島に比べて観光の面では見劣りする状況である。師崎港から 10 分という近さだが、全国の離島の抱える問題は篠島にも同等に存在し、少子高齢化の中で空家なども目立ってきている。愛知淑徳大学清水裕二ゼミは、篠島に住む卒業生山本雄大氏の縁で、2014 年度から篠島の活性化をテーマにゼミ生とともに提案・実践を行ってきた。離島は、少子高齢化に伴う人口減少、空き家の増加、地場産業の衰退など、日本の地方が抱える課題が先鋭的に現れる「課題先進地域」である。篠島での活動は、学生たちにそういった地域の課題について考え、改善に取り組む貴重な実践と学習の場となっている。さらには、離島という限定された環境の中で、資源やエネルギー、ゴミ処理といった問題について考えることは、SDGs（持続可能な開発目標）など、現在世界各国が参加する国際的な取り組みにもつながる可能性を持っている。2020 年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、様々な産業、特に観光業は大きな影響を受けた。本活動も、学外教育が難しくなるなど、今までのとは異なる状況の中で、学生たちや関係各者の頑張りによってなんとか本年度の活動を終えることができた。本稿はその活動の記録である。

2021 年 3 月

愛知淑徳大学 創造表現学部

建築・インテリアデザイン専攻

清水裕二



2014 年度

篠島活性化提案「島民への活性化案プレゼンと交流会」

第一回

日時：2014 年 7 月 5 日（土） 19:00-21:00

場所：南知多町篠島サービスセンター

企画：山本雄大（Sample Creation 代表・清水裕二ゼミ卒業生）

清水裕二（愛知淑徳大学創造表現学部建築・インテリアデザイン専攻教授）

参加人数：プレゼンテーション

教員 1 名 清水裕二

OB 1 名 山本雄大

学生（愛知淑徳大学 3 年生）15 名

参加者

約 70 名

2014 年度は、4 月の研修では、島のリサーチや島の人々との対話を行った。7 月はそれをもとに篠島の活性化の提案を島の人々にプレゼンテーションし、交流を行うとともに島の人々のご意見をうかがうのがおもな目的である。受付の後、アイスブレイキングを行い、学生と住民がお互いに自己紹介を行った後、プレゼンタイムに入る。学生は 5 つのグループに分かれ、各自の提案を表現したパネルと模型の前で、住民たちに説明を行い、住民たちは自由に学生たちの提案を見て回り、学生たちと会話した後、案に対しての意見を付箋に書いてパネルに貼っていただいた。結果的には 70 名ほどの住民に来ていただき、非常に貴重なご意見をいただいた。中には厳しいご意見もあったが、全体的には学生たちががんばって篠島に対して提案してくれたことに感謝するコメントを多くいただくことができ、学生たちも苦勞が報われたようであった。一方で、予想以上に多くの方が訪れたため、受付で混乱が起き、十分に会の進行について説明できなかつたり、アイスブレイクの間に帰る人がいるなど、多くの反省点もあった。

第1回プレゼンテーション・交流会



篠島活性化提案「島民への活性化案プレゼンと交流会」

第二回

日時：2014年9月20日（土） 18:00-21:00

場所：南知多町篠島サービスセンター

企画：山本雄大（Sample Creation 代表・清水裕二ゼミ卒業生）

清水裕二（愛知淑徳大学創造表現学部建築・インテリアデザイン専攻教授）

参加人数：プレゼンテーション

教員 1名 清水裕二

OB 1名 山本雄大

学生（愛知淑徳大学3年生）15名

参加者

約30名

7月の研修では、篠島の活性化の提案を島の人々にプレゼンテーションし、島の人々のご意見をうかがった。今回はその際の意見をもとに、提案をさらにブラッシュアップして、パネルや模型を展示して再び島の住民に見ていただき、投票などで評価していただくのが目標である。当日は開始時刻が夕食時間と重なった為、出足は前回よりも鈍く、暫く開店休業状態だったが、20時以降増えていき、学生たちの提案が展示されたテーブルを巡り、学生たちのプレゼンを聞いていただいた。学生は前回同様5つのグループに分かれ、各自の提案を表現したパネルと模型の前で、住民たちに説明を行い、住民たちは自由に学生たちの提案を見て回り、学生たちと会話した後、投票用紙に気に入った案を書いていただき、投票箱に投票していただいた。結果的には30名ほどの住民に来ていただき、非常に貴重なご意見をいただいた。参加者が前回の半数以下にとどまったのは、開催が土曜日の為、翌日の漁に備えて漁業関係者の方の参加が少なかったのが原因であることがわかった。前回は、翌日が漁の休日のため人々が子連れで多く参加していただいていたとのことである。開催日程を島の人々が参加しやすい日に設定することが非常に大切であることを今回学んだ。現地の若い漁師の皆さんからは、せっかくの提案をあまり多くの人に見てもらえないのは残念だということで、今後島で展示できる場所がないか検討してみるということになった。嬉しい提案である。投票を見ると、ゴルフ場のクラブハウスを銭湯にコンバートする案が非常に多くの支持を得ていた。今後、地元の観光協会や、事業主の名鉄に掛け合い、実現の方向性も探っていくことになった。前回よりも住民の参加が少なかったことは反省点として、今後もゼミの活動として引き続き篠島の島おこしに関わって行きたいと学生共々決意を新たにした。

第2回プレゼンテーション・交流会



2015 年度

篠島活性化提案「海の家提案」

日時：2015 年 7 月 4 日（土） 10:00-18:00 5 日（日） 10:00-17:00

場所：元観光案内所（旧ゴルフ場クラブハウス）、前浜

企画：山本雄大（Sample Creation 代表・清水裕二ゼミ卒業生）

清水裕二（愛知淑徳大学創造表現学部建築・インテリアデザイン専攻教授）

参加人数：

教員 1 名 清水裕二

OB 1 名 山本雄大

学生（愛知淑徳大学 3 年生）7 名

2015 年度は、実際に現地でものを作ることを目指して、海の家を提案を行った。4 日は、まずこの 3 月に行った昨年のゼミの提案のパネルと模型の展示を、元観光案内所から港近くの海の駅に移動し、展示を行った。船で発着する地元民や観光客は必ず通る場所なので、以前の展示より多くの皆さんに見てもらえることができそうである。実際、展示中からいろいろな方から質問や感想をいただくことができた。昼食後、元観光案内所にて、しらすを干すせいろという道具を再利用して、展示のパネル用のスタンドと、海を家のメニュー表を製作した。夕食後、篠島泊。5 日は、まず港近くのゴルフ場後の周辺を散策した。高台の公園からはゴルフ場全体と海が見渡せ、いい眺めであった。その後、元観光案内所にて漁網を再利用したハンモックを製作。メニュー表の最後の仕上げをした後、海を家の現場へ。建設途中の足場用の鋼管を利用してハンモックの設営を試験的に行い、高さや強度の確認を行った。その後、海を家の反対側に位置する展望台や浜辺を見学し、篠島の美しい景観を堪能した。今回は台風が近づいていることもあって、自分たちで提案した部分を施工することができなかったが、ある程度準備をすることができたので、後はお店の皆さんにお任せして、施工状況は報告していただくことになった。

海の家モックアップ制作の様子



2016 年度

篠島活性化提案「竹を使った居場所の提案」

日時：2016 年 8 月 22 日（月） 10:00-18:00 23 日（火） 10:00-18:00 24 日（水） 10:00-17:00

場所：元観光案内所（旧ゴルフ場クラブハウス）、前浜、北山公園、鯨浜

企画：山本雄大（Sample Creation 代表・清水裕二ゼミ卒業生）

清水裕二（愛知淑徳大学創造表現学部建築・インテリアデザイン専攻教授）

参加人数：

教員 1 名 清水裕二

OB 1 名 山本雄大

学生（愛知淑徳大学 3 年生）15 名

2016 年度は、5 月、6 月、7 月の 3 回にわたって篠島を訪問し、調査や、関係者への説明と協力要請を行った。8 月は前回までに観光協会長さんらに提案させていただいた活性化提案を、実際にプロトタイプを制作し、島の住人や観光客に使っていただいて、その感想や意見をもとに、恒久的な設置を目指すための実証実験を行った。

初日はまず竹林での竹の採取を行った。前回採取した尾根筋脇の竹林と、前浜近くの空き家敷地内の竹林の二手に分かれて採集を行った。空き家敷地内では、割って使用する太い竹が奥の方に生えており、手前の竹を伐採しながら進まなければならず、予定よりも時間がかかった。昼食後、採集した竹を使って、前浜と北山公園に分かれて制作を行った。前浜ではファイヤープレイスの制作を行った。竹を割って縄で結ぶところまでは作業が進んでいたが、コンクリートブロックの隙間が思ったより狭く、竹を立てるところで頓挫してしまった。北山公園では、子供のためのプレーパークの制作を行った。廃棄された網と廃材を使ってハンモックとブランコは作れたが、竹のドームとパーゴラまでは作れなかった。鯨浜では、以前篠島のイベントで使用された流木を使ったオブジェを再構成して、カップルをターゲットにした撮影場所を制作したが、日没のため、初日は完成せずに終えた。

二日目は朝から制作にとりかかり、北山公園は午前中に竹の構築物も制作を終えて、午後から公開に踏み切った。前浜のファイヤープレイスや島の駅でチラシを配った成果もあり、子供たちや引率の大人も含めて十数人が訪れ、中にはほとんど半日入り浸っている子供もいた。ファイヤープレイスは結局竹の足下を廃材の材木で固めて、なんとか夕方までできたが、もはや日没も近く、観光客などに意見を聞くことはできなかった。鯨浜の撮影スポットは日没にあわせて LED の照明を設置し、非常にいいムードに仕上がったが、ちょうど日没の夕日が奇麗な時間帯が宿の食事の時間とかぶっており、結局観光客に来てもらうことはかなわなかった。地元の住民が来てくれて褒めていただいたのがせめてもの救いであった。夜は前浜のファイヤープレイスで日を起こして、その周りで BBQ を行った。竹の採集などにご協力いただいた島の若い漁師さんも家族連れで参加し、近所野子供たちも火の周りに集まってにぎやかに夜を過ごした。火には人を集める中心となる力があることを実感した。

3 日目は午前中公開を続けたが、それほど広報をしなかったこともあって、前浜のファイヤープレイスと鯨浜の撮影場所はほとんど人が来なかった。北山公園のプレーパークは、昨日来てくれた子供たちが数人リーダーとなり、午前中からずっと遊んでくれていた。この日の午後に撤去することを伝えると、「お願いだから残して欲しい」と懇願され、嬉しく思ったが、管理のこともあり残すのは難しいと考えていた。結局、島の住人が、ファイヤープレイスと公園を高く評価し、ある程度自分たちで管理してしばらく残すことになった。ファイヤープレイスは旧観光案内所で保管し、公園の竹の構築物は撤去・廃棄したが、ハンモックとブランコはしばらく設置したままにしておくことになった。

今回、実際に制作することで島の人たちや子供たちに体験していただき、ある程度の評価を得ることがで

材料集めと設営の様子



篠島活性化提案「山本邸リノベーション計画」

日時：2016年6月 ～ 2017年2月

場所：篠島山本雄大邸

企画：山本雄大（Sample Creation 代表・清水裕二ゼミ卒業生）

清水裕二（愛知淑徳大学創造表現学部建築・インテリアデザイン専攻教授）

参加人数：

教員 1 名 清水裕二

OB 1 名 山本雄大

学生（愛知淑徳大学3年生）13名

2016年度は、「竹を使った居場所の提案」とともに、篠島の活性化に関わるきっかけを作ってくれた清水ゼミOBの山本雄大氏が篠島で購入した空き家を、住宅としてリノベーションする計画を学生たちが提案した。

6月の篠島を訪問の際に、山本邸の現地調査を行い、山本氏の要望などを聞き取った上で提案を進めた。13名が4グループに分かれてリノベーション案を考え、山本氏とやりとりしながらエスキスを重ねた。最終的に山本氏が一番要望を捉えていた案を選び、その案をベースに実施案をまとめた。最終的には山本氏を納得させるまで案を詰めることができず、実際に施工するところまでは至らなかったが、クライアントの要望を形にして、プレゼンテーションを繰り返すのは、建築やインテリアデザインの実務とつながるため、学生たちがこのプロジェクトで得た経験は大変大きいものであったと言えるであろう。篠島には空き家も多く見られるので、それらを今後どのように活用していくのか、その課題への端緒となる重要なプロジェクトであった。

現地調査の様子と学生たちの提案



Yamamoto House Renovation

Bob(佐野美波 田中実央 松山侑生 渡邊しおり)

～種別にあるカフェ別荘のような家～

限られた空間の中で重宝を実現させるため様々な対応ができるよう用途を重ねる。さらに仕切りをなくし開放的な空間を目指す。そうすることで開放的な空間が、皆で音楽を楽しめる場となる。

開放的なリビングをカフェのようなオシャレな内装にすることでゲストも気軽に利用できるような空間を提案する。その中でも重要なようにプライベートな落ち着きある空間を設けることで安心して暮らせる家となる。

ゲストルーム (G) をしている時の目標 ▶ デッキまで見渡せ開放感を得られる。家の中の様子全体を見ることができ、

玄関からのリビングの眺め 食事をしてるリビングが見える。一面レンガの壁越し、敷物を置く。

ダイニング収納椅子 ▶ ゲストが増えても対応できる椅子であり 音楽を共有できるあたたまる場所。

リビング (ダイニングからテレビを見た時の目標) テレビを後ろ一面レンガの壁にする。また、家の奥になってリビングがまたさらに明るく。デッキで遊ぶ犬の姿が見える。

レンガ壁 透視壁 高壁

S=1:150

土間と住む家。

Alex(磯部沙帆 山口樹寛 米澤東純)

外と内の中間的スペース 土間のまま寝転がりに立ち寄ることができる コミュニケーションスペース

見せる収納 自転車やアウトドア用品など趣味のものを飾るように収納

外とのつながりを持たせ 開放感を生まれる

ソファの背面の高さを整とそろえることで遮るものがなく、開放感が出る

家具によって土間からの視線を遮る 奥さんの化粧台、化粧品収納棚、ハンガーラックなどを設置できる

ゲストハウスの利用者がレコードを聴きながら朝食を食べたり、夜コーヒーを飲んで一息ついたりする

レコード屋で使っていたディスプレイがカフェになつたときにちよつとしたテーブルとして利用

テーブルではなくカウンターにすることでお客さんとの距離を縮めて、世間話したり、コーヒーの話をしたりお菓子の説明をすることが出来る

plan s=1:150

Hobby

Daniel (西家歩 中川紗季 堀木瑠王)

Handmade furniture

デスク 材料:2x4材、ラワンラジバー t=9.15

棚仕切り棚 材料:ラワンラジバー t=9.15

リビング棚 部材1種

リビング前 材料:角材、ラワンラジバー t=9.15

ベンチ open 収納 etc...

暮らしやすい家 収納の多さ、手作り家具による温かさ、部屋をゆるく仕切りによる開放的な空間作り。

人が集まる家 ゲストハウスとして使えるだけでなく、友達などが集まってきたりするようにフリースペース空間をつくり、さらにリビングからデッキまでの開放的な空間でみんなで音楽や食事を楽しめる。

Free space フリースペースは、友達との限りの幅の広い空間として活用できる。こととリビングは壁で視線を遮り、プライベートに考慮している。1階のベランダには収納ができるようになっている。

Living リビングと部屋1の間に少し高めの間仕切り壁を置くことで、大きな空間をゆるく仕切る。これにより、部屋1からデッキまで開放的な空間となる。

S=1:150

壁や床は変えず家具で空間を仕切り、変える。

Cameron(鬼頭理瑠 近藤南南 杉浦叶貴)

DJブースを家の中心に置いて、音楽がどこでも聞けるようにする。

<プライベート空間・リビング> 暖簾などのプライベートスペースとリビングは熱材を斜めに配置して緩やかに仕切る。

<次の通り道> フリースペースの間に次の通り道をつくる。床にも楽しく通さずとも見えるようにする。

<ダイニングキッチン> 下に収納機能をついたカウンターテーブルをつくる。奥さんがよく使用するキッチンに奥さん好みのタイルを張替える。

<収納部屋> 収納の扉を一つ大きく取捨することにより、寒気体にモノが散乱しなくなり、開放的な空間となる。

テレビ台 ・デアウォール ・ツブイ材 ・ラワン合板 ・板材

ハンガーラック ・ホワイトアッシュ丸棒 ・ラワン合板

DJブース ・既存のレコードボックス ・ラワン合板 ・天板用/ビーン材

収納スペース ・収納扉

リビング前 ・DJブース

プライベート空間 ・フリースペース

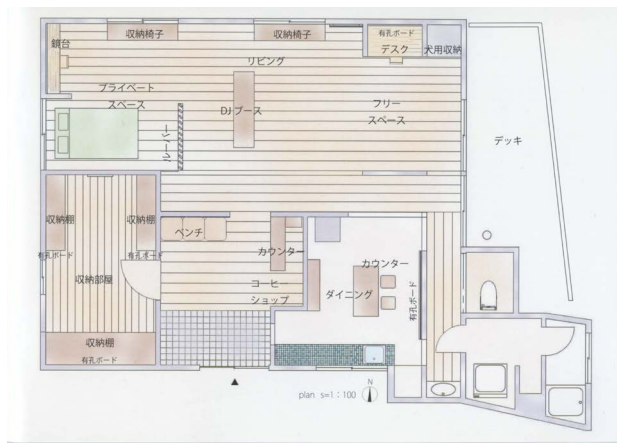
収納部屋

洗面所

脱衣所

風呂

plan s=1:150



収納 × 開放感

音楽が中心にある家

既存のカラーボックスを使用して、DJブースをつくる。あるものを生かすことによって、コストを抑える。

ラワン合板と有孔ボードを使用して、デスクをつくる。鏡台・天用収納にも同様のものを使用する。

2017年度

篠島活性化提案「篠島アイランドマルシェ参加」

日時：2017年7月16日（日） 10:00-20:00

場所：名鉄海上観光船フェリー乗り場近隣広場

企画：山本雄大（Sample Creation 代表・清水裕二ゼミ卒業生）

清水裕二（愛知淑徳大学創造表現学部建築・インテリアデザイン専攻教授）

参加人数： 教員 1名 清水裕二

OB 1名 山本雄大

学生（愛知淑徳大学3年生）5名

2017年度は7月16日、17日に行われた音楽イベント篠島フェスに合わせて、篠島の住民主催のマーケット「アイランドマルシェ」にジュースとコーヒーの屋台で参加した。ゼミOBの山本雄大さんにゼミに来てもらい、基本的なコンセプトやメニュー作りなどを進め、大学で屋台と、会場で使用するゴミ箱を制作。ジュースのシロップなどは学生たちが各自家で準備したものを当日持ち寄った。

フェス当日は、午前中は屋台の準備を行い、11時の開店に備えた。開店前から周囲の店の人たちからの注文も入り、なんとなく開店する流れになった。

午前中はぼちぼちな人出だったが、お昼頃から人が増え始め、ジュースやアイスコーヒーは順調に売れていった。途中、客が途絶えた時には呼び込みを行ったりした。夕方になると、夜に映像などのインスタレーションを行うメディア表現の萩原ゼミの人たちも合流し、夜のイベントに合わせたレイアウトに変えた。その後もそこそこお客が入り、目標の8割近くの販売数を達成し、なんとか全体で黒字になった。

今回は、屋台やゴミ箱の制作といった、建築・インテリアデザインの領域だけでなく、材料のコストや原価計算、売上目標など、普段授業では扱わない経営的な視点で考える機会を与えていただき、単なる「ものづくり」だけではなく、それで生起する「こと」を含めてどのようにマネジメントするのかといった、学内では得られない貴重な体験をさせていただいた。学生たちにとってもいい学外研修になったと確信している。

屋台制作とマルシェでの販売の様子



2018 年度

篠島活性化提案「篠島リサイクルワークショップ」

日時：2018 年 11 月 4 日（日） 12:00-15:00

場所：南知多町立篠島小学校体育館

企画：山本雄大（Sample Creation 代表・清水裕二ゼミ卒業生）

清水裕二（愛知淑徳大学創造表現学部建築・インテリアデザイン専攻教授）

参加人数：ワークショップ指導

教員 1 名 清水裕二

OB 1 名 山本雄大

学生（愛知淑徳大学 3 年生）15 名

ワークショップ参加者

子供 15 名 大人 5 名

2018 年度は篠島の活性化活動の一環として、主に島の子供達を対象に廃材を利用したアクセサリー作りなどのワークショップを行った。篠島は離島のためほとんどの資源を本土からの船による輸送に頼らざるをえない一方で、島民や観光客の出すゴミのみならず、伊勢湾や太平洋から様々なゴミが漂着し、その処理もまた本土での処理に頼っている。そこで、ゴミもできる限り資源として活用していくことが島の美観や持続可能な社会につながると考え、島の子供達や住民がゴミのリサイクルについて考えるきっかけになればと企画をした。

前日はまず街の居住地域で清掃活動を行ったのち、海岸で清掃をしながら翌日のワークショップで使うシーグラスや流木などの廃材の収集を行った。ワークショップ当日は、朝食後まず昨日集めたゴミの回収を行い、会場となるホテル屋上に上ったが、あいにく雨が降り始めたため、雨天時の会場である篠島小学校の体育館へ移動した。準備時間が限られているため急いで準備を行い、なんとかワークショップ開始時間に間にあわせることができた。今回はワークショップに合わせて、前期の展示会の授業で使用したステンレスパイプを再利用したフラードームを製作した。フラードームの考案者である建築家バックミンスター・フラーは現在のエコロジー思想の先駆者で、地球の限られた資源をどうやって人類全体でシェアするかを考え、「宇宙船地球号」という言葉によって世界に訴えた。

初回のワークショップの時間には誰も現れず不安になったが徐々に子供達が集まり始め、2 回目の時間にはかなりの人数が集まった。その後も来場者は増え、最終的にはアクセサリー、メモ立て、ウェルカムボード、シーグラスの絵立ての 4 箇所ワークショップの机が全て埋まるような盛況であった。子供達はもちろん、引率の大人達にも楽しんで作っていただいた。子供達には是非またやって欲しいとの要望ももらった。一ヶ月以上にわたり苦労して準備を行ってきたが、予想以上に多くの島民に来ていただき、とても喜んでいただいたことが、何より学生達にとって得難い成果であったと感じた。これを契機に島の子供達や住民がゴミの処理について考え、できる限りゴミを出さず、使えるものは再利用するような意識を持って行っていただけたらと思う。

島の清掃・材料集めとワークショップの様子



2019 年度

篠島活性化提案「篠島旅館リノベーション」

日時：2019 年 9 月 13 日（金）～ 15 日（日）10:00-17:00 19 日（木）10:00-17:00

場所：南知多町

企画：山本雄大（Sample Creation 代表・清水裕二ゼミ卒業生）

清水裕二（愛知淑徳大学創造表現学部建築・インテリアデザイン専攻教授）

参加人数： 教員 1 名 清水裕二

OB 1 名 山本雄大

学生（愛知淑徳大学 3 年生）10 名

2019 年度は現在空き家となっている民宿のロビーをフリースペースにリノベーションするプロジェクトを行った。

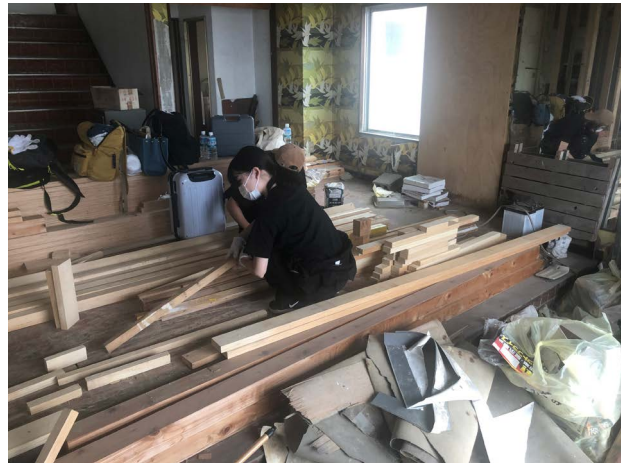
6 月に現地調査を行った。まずはプロジェクトの対象である民宿へ行って、現状を実測調査した。室内は、改修工事の途中で中断した様子で、壁や床の下地が立ち上がっており、仕上げをする前の状態で止まっていた。資材も多く残されており、全体の清掃をするのが大変そうであった。クライアントと話して、現在の状態を生かしながら、残った資材等を活用して、できるだけローコストでリノベーションするという事で意見が一致した。

9 月は夏休みの数日間（13 日～ 15 日）をかけて、実際にリノベーションの施工作業を行った。まずは民宿の 1 階の天井パネルを剥がした後、床に散乱するゴミや資材を整理し、作業環境を整えた。続いて、既に下地が出来ていた壁に、石膏ボードを貼る作業を行った。カウンターの周りに枠をつけ、壁の形状や開口部に合わせて石膏ボードを切断し、ビスで固定していった。元受付だった場所に立てられた壁下地にも石膏ボードを貼り、外部に設置するベンチの材料の切断を終えたところで、作業を終了した。

19 日は前回に引き続き、旧玄関の場所に既に下地が出来ていた壁に、石膏ボードを貼る作業を行った。梁、壁の形状や開口部に合わせて石膏ボードを切断し、ビスで固定していった。下地が出来ていない部分もあったので、下地を造る作業も並行して行った。また、外部に設置するベンチの部材を切断し、組み立てを行ったところで、作業を終了した。現場の清掃を行い、トラックに廃棄物を積んで、フェリーにて篠島から師崎港へ。その後トラックで廃棄物を処理場に運んで、処分を行った。

今年度はいよいよ実際の建築物の施工を行い、篠島の活性化のための場作りの段階に入った。リノベーションはまだ完成していないので、来年度も引き続き清水ゼミの学生たちが作業を引き継ぐかどうか、検討中である。

旅館リノベーション施工の様子



2020 年度

篠島活性化提案「篠島旅館リノベーション」

日時：2020 年 6 月 ～ 2020 年 11 月

場所：南知多町

企画：山本雄大（Sample Creation 代表・清水裕二ゼミ卒業生）

清水裕二（愛知淑徳大学創造表現学部建築・インテリアデザイン専攻教授）

参加人数： 教員 1 名 清水裕二

OB 1 名 山本雄大

学生（愛知淑徳大学 3 年生）10 名

2020 年度は 2019 年度に引き続き、現在空き家となっている民宿のロビーをフリースペースにリノベーションするプロジェクトを行った。

6 月 11 日は旅館の中に残っていた壁や床の撤去を行った。パールや電動のこぎり等で解体しつつ、今まで出てきた廃材を短く切ったり、出ている釘を叩いて曲げたり、まとめて紐で縛るなどの作業を分担して行った。作業を進めるうちに、役割分担や、効率の良い方法などを共有しながら次第に全体の作業が効率化されて行った。最後に現場の清掃を行い、トラックに廃棄物を積んで、島の処理場に運んだ。

6 月 18 日は前回解体しきれなかったロビー部分の床の撤去を行いながら、前回同様出てきた廃材を短く切ったり、出ている釘を叩いて曲げたり、まとめて紐で縛るなどの作業を分担して行った。前回の反省を踏まえて、全体的に作業の効率化が行われていた。最後に現場の清掃を行い、トラックに廃棄物を積んで、島の処理場に運んだ。

6 月 25 日は前回解体しきれなかったロビー部分の床の撤去を行いながら、前回同様出てきた廃材を短く切ったり、出ている釘を叩いて曲げたり、まとめて紐で縛るなどの作業を分担して行った。これによって解体作業はほぼ終了したので、塗装の作業に入った。マスキングテープで塗装の範囲を決め、塗料がかからないようにマスキングを行った。分担して壁の塗装を行った。今回は大工さんや水道業者のプロの方に指導していただきながら作業を行った。プロの指導によって作業のコツや注意点などを学ぶことができ、学生たちにとって貴重な学習の場となった。その後、今後の施工の方針を話し合い、カウンターデザインなどを考えてくるように全体に指示を伝えた。最後に現場の清掃を行い、トラックに廃棄物を積んで、島の処理場に運んだ。

7 月 2 日は施工を中心に行った。まずは作業場所を確保するために道具や材料を移動し、作業の確認を行った。塗装班と施工班に分かれ、塗装班は前回に引き続きロビーの壁面の塗装を行った。施工班は、廃材を使ったカウンターの施工に入った。足場板を選択し、現場に合わせて採寸して、カットした。天板に合わせて 2 × 4 材をカットし、天板の足を組んだ。今回は前回に引き続き大工さんや水道業者のプロの方に指導していただきながら作業を行った。プロの指導によって作業のコツや注意点などを学ぶことができ、学生たちにとって貴重な学習の場となった。

7 月 9 日も前回に引き続き施工を中心に行った。前回作り始めたカウンターの足の施工を行った。足を組んだのち、側面にラスボードを貼って、廃材のタイルを並べてボンドで貼り付けた。一方で、漆喰の調査を行い、左官屋さんの指導を受けながら、ショップの壁に漆喰を塗った。壁に残った壁紙をはがしたのち、手分けして壁に塗っていった。途中で交代して、なるべく全員が左官の経験ができるようにした。今回も前回に引き続き大工さんや左官屋さんなどプロの方に指導していただきながら作業を行った。プロの指導によ

て作業のコツや注意点などを学ぶことができ、学生たちにとって貴重な学習の場となった。

7月16日も前回に引き続き施工を中心に行った。幾つかの班に分かれ、一つの班は前回に引き続きカウンターの施工を行った。足を組んだのち、側面にラスボードを貼った。他の班はモルタルで、コンクリートの壁や床の補修を行った。カウンターの施工ののち、漆喰の調合を行い、カウンターの足部分のラスボードに漆喰を塗っていった。前回タイルを貼った部分に漆喰を塗り、塗った後でタイル部分を洗い出す作業は皆苦勞をしていた。その他、サッシにマスキングして塗装の下地材を塗布したり、まだ未塗装の壁の壁紙を剥がし、塗装するなど、各人が交代しながら様々な作業を並行して行った。まだ施工は完全に終わっていなかったが、コロナ禍の影響もあり、これ以上スケジュールを伸ばして作業を続けることが難しく、最後の仕上げは地元の皆さんに引き継いでいただいた。

11月27日は仕上げを終えたフリースペースを見学するとともに、作業中には時間がなくて見れなかった篠島の観光スポットを見学した。フリースペースは、家具や什器が置かれており、人の居場所の雰囲気が出ていた。壁や天井にも廃材を利用した装飾がされており、素材の凹凸を利用したデザインに学生たちも感心していた。フリースペースを出て昼食をとり、篠島見学へ。伊勢神宮に奉納するおんべ鯛の調整所、伊勢神宮の式年遷宮で建て替えられた社殿の古材を下賜されて造られた神明神社、八王子社、斜面に立ち並ぶ住宅の隙間に複雑に張り巡らされた路地、かつて遭難して島に滞在した皇子のために掘られたという「帝の井」、歌碑公園展望台、鯨浜などを見て、港へ向かった。

昨年度に引き続き、廃業した旅館ロビーのリノベーションを行ったが、新型コロナウイルス感染拡大のため、施工の最後の段階に関われなかったのは残念であった。しかしながら、建築の施工経験のない学生たちが、建築の解体を通して建築がどうできているかを学び、塗装の技術を習得できたこと。また廃材処理などは、離島では本土に比べて処分が難しいため、なるべく処理しやすいように短く切ったり、釘などを抜いたり曲げたりする作業を通じて、離島のゴミ処理の問題にも理解が深まったこと。廃材を使ったカウンターの施工や、完成後の現場にあった廃材を巧みにデザインに取り込んだ仕上げや装飾などを見て、資源の少ない離島におけるものづくりやデザインの手法を学んだことなど、成果も大きかった。来年度以降は、島の内外の空家物件をリノベーションして再活用する活動に本格的に関わることを検討している。

旅館リノベーション施工の様子



旅館リノベーション施工の様子

